

G I Sを用いた「都市の見える化」のご紹介

5年毎に作成している都市計画基礎調査のデータを十分に活用していますか？ 弊社では都市計画基礎調査で作成したG I Sを用いて都市の現状分析を行う「都市の見える化」をご提案します。

都市計画区域に関して5年ごとに実施する都市計画基礎調査では、人口、産業別就業人口、市街地面積、土地利用、交通量、地価など、様々なデータを作成・更新しますが、都市政策の検討にあたり、十分に活用されていないのが現状です。

弊社では、都市計画基礎調査で作成・更新したデータについて、様々な活用方法を検討し、「都市の見える化」を通じて政策実現を後押しのための支援を行います。提案にあたっては、以下の点に留意します。

1. G I S (地理情報システム)の活用

G I S (地理情報システム) を用いて、地図上に様々な空間要素の重ね合わせを行います。また、政策実施前と実施後の変化も容易に、わかりやすく表現できます。

2. データ起点の仕組みづくり

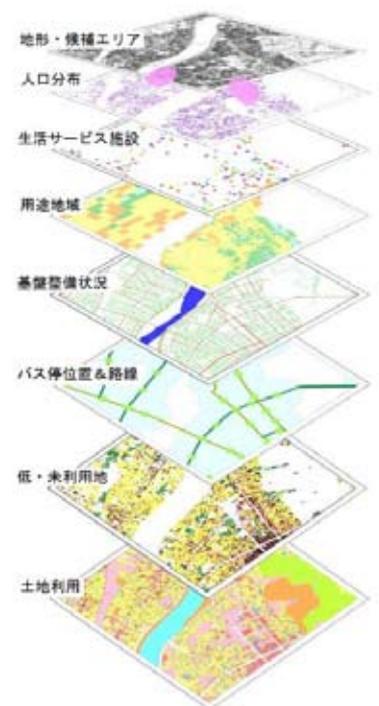
現状は計画作成のたびに個別に同じ分析を複数回行っており、非効率です。一元的にデータ分析を行い、その結果を各種計画に反映する仕組みを検討します。

3. 継続的な政策評価

単にG I Sを用いて「見える化」するだけでなく、継続的に政策評価につながるような仕組みの提案を行います。

4. 効率的なデータ更新

5年毎の都市計画基礎調査のデータ更新においても、既存のデータの整備状況の調査を行い、より効率的なデータの更新が可能となる仕組みの提案を行います。



都市計画基礎調査のGISデータの活用例

都市計画基礎調査のデータは、様々な場面で活用することができます。その一例を以下に示します。

1. 立地適正化計画策定のための都市構造分析

- ①経年変化を踏まえた小地域ごとの将来の人口推計
- ②昼間人口と産業分類別従業者数の関係分析
- ③地価と土地利用(住宅地・商業地・工業地)の関係分析

2. 地域公共交通網形成計画策定のための交通利便性分析

- ①公共交通利用圏と人口（高齢者）分布の関係分析
- ②公共交通利用圏と従業者分布の関係分析
- ③公共交通利用圏と小売業販売額の関係分析
- ④小地域ごとの公共交通または自家用車の分担率算出
- ⑤人の移動と都市構造との関係分析

3. 公共施設再編のための分析

- ①人口と公共施設との関係分析
- ②公共交通利用圏と公共施設との関係分析

4. 災害危険度の分析

- ①過去の災害と都市構造との関係分析
- ②災害予測(ハザードマップ)と都市構造との関係分析

お問い合わせ先



<http://www.teikoku-eng.co.jp/>

〔担 当〕 社会システムセンター まちづくり推進部

岐阜市橋本町2-8（濃飛ニッセイビル6階） TEL 058-214-3459 FAX 058-252-3766